

「シャインマスカット」の高品質生産に向けた取組

■ 「さぬき讚フルーツ」認定生産者等 ■

(東讃農業改良普及センター 村尾昭二、○掛鯛吉洋、川北兼奨)

●対象の概要

ブドウ「シャインマスカット」は、管内では品種別販売単価が最も高く、栽培面積も「ピオーネ」に次ぐ主力品種で、ブドウの生産者のほとんどが導入している。

また、同品種は、県が推進している「さぬき讚フルーツ」推奨制度の対象品種で、管内では、令和元年10月現在、J A香川県さぬき市果樹部会(部会員数18名、栽培面積1.1ha)、J A香川県中央地区ぶどう部会(52名、5.1ha)、きたはらぶどうパラダイス(0.1ha)、橘ぶどう園(0.2ha)が生産・出荷を行う団体・個人として認定されており、同品種の高品質安定生産に取り組んでいる。

●課題を取り上げた理由

「シャインマスカット」は、食味が良く、種無しで皮ごと食べられることから、消費者からの人気は高く、市場関係者や小売店等、全国のブドウ関係者から注目されている。本県では、主力品種である「ピオーネ」が高温による着色不良に悩まされてきたことから、青系で着色の心配がない同品種に着目し、全国に先駆けて現地試験に取り組み、平成19年に苗木の流通が開始されると、いち早く産地への導入が始まった。

管内の産地は、高松市中央、高松市南部、高松市西部、香川、三木の5地域で構成される中央地区(高松市・三木町)と、志度、造田の2地域で構成される大川地区(さぬき市)がある。

「シャインマスカット」の導入を契機に、J A香川県が県下一農協の強みを生かして出荷形態や規格の統一を図り、香川県産としてブランド化に取り組み、現在では県が推進する「さぬき讚フルーツ」の主力品種となっている。

しかし、「シャインマスカット」の生産者が増え、生産量が増加してくると、生産者間の果実品質のバラツキが目立つようになり、導入から10年以上が経過して樹勢が低下する樹も見受けられるようになってきた。

一方、全国の「シャインマスカット」の面積は

平成24年の463haから、平成28年には1,196haと2倍以上に増加している。また、四大市場における出荷量も、平成27年の3,931tから、令和元年には8,676tと2倍以上に増加している。

そこで、他県との差別化を図り、ブランド産地としての地位を確保するため、栽培施設の導入支援等による栽培面積の拡大と、高品質果実の安定生産に向けた対策の推進に取り組んだ。

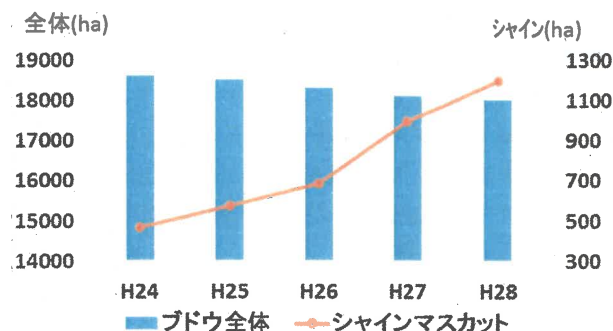


図-1 全国における「シャインマスカット」の栽培面積の推移(農水省統計データにより作成)

●普及活動の経過

1 定期的な講習会と濃密な巡回指導

「シャインマスカット」は、着色の心配がなく、新梢の伸長が旺盛であるため、導入当初から樹勢が強く、多収穫が可能な品種として認識されてきた。

しかし、一部の生産者では大房化と房数過多により、糖度の不足や上昇の遅れ、小粒化、「かすり症(生理障害)」の発生が助長される事例が見られるようになった。このような結果過多の状態が継続した場合、樹勢の低下による果実品質の低下が常習化し、これまで築き上げてきたブランド産地から脱落する恐れがあった。

そこで、J Aと連携して、重要な栽培管理ごとに講習会を各産地で開催するとともに、栽培園地を定期的に巡回し、基本的な管理についてきめ細かく個別指導を行うことで、理想とする

房型、目標とする房数となるよう房管理の徹底を図った。

2. 優良農地の維持管理及び新規参入者支援

本県のブドウ栽培は、施設栽培を基本としており、初期投資が高額となることから、これまで親子間での経営継承がほとんどであった。しかし、「シャインマスカット」については高値で取引されている影響もあり、ブドウ栽培を目指して新規の就農希望が当センターに寄せられるようになってきた。

一方、産地では、園主の高齢化や後継者不足により、当該品種に更新したにもかかわらず、十分な管理が行えていない園地が増加している。そこで、JA香川県や市町、農業委員会と協力して、継続が困難な優良園地の第3者への継承に向けて支援するとともに、新規就農者が自立できるよう重点指導を行った。

3. 個人面談の実施

収穫後、JAと連携して全生産者との個人面談を実施し、土壌診断結果や販売結果の説明とあわせて、生産面での課題や今後の対策について指導した。また、「シャインマスカット」の全国情勢や販売結果等についても周知し、他品種からの改植や施設栽培を基本とした新規植栽を推進した。

●普及活動の成果

1. 高品質果実の生産量の増加

基本管理(特に房管理)の徹底について、新規就農者に対し重点指導等に取り組んだ結果、「さぬき讚フルーツ」の基準を満たした商品は、平成27年の17.1tから令和元年には27.1tと10t

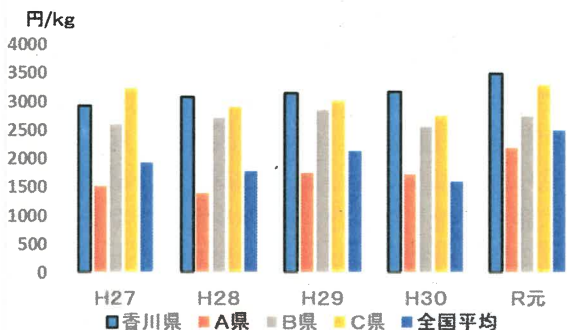


図-2 東京都中央卸売市場における「シャインマスカット」の平均単価(8月)の推移(東京都中央卸売市場統計情報により作成)

増加した。品質も市場から高く評価され、京浜市場における平均単価も、過去5年間を通じて、全国でもトップクラスを維持している。

2. 栽培面積の増加

優良園地の継承支援や生産者に対する個人面談等を行った結果、施設化をとまなう新規植栽や他品種からの転換が計画的に行われ、栽培面積は平成27年度から平成30年度までの3年間で0.7ha(新植0.5ha、改植0.2ha)増加した。

表-1 管内シャインマスカットの栽培面積(単位:ha)

年度	H27	H28	H29	H30	R元
新植※1		0.3		0.2	0.1
改植※2			0.1		0.1
累積	6.7	7	7.1	7.3	7.5

※1 施設化を伴う新規植栽 (センター調べ)

※2 その他品種から当該品種への更新

また、新規就農者については、平成28年に1名が成園化した施設栽培10aを、平成30年に1名が植栽4年目のトンネル栽培8aを継承し、就農初年目から収益を上げている。



順調に生育する新植の「シャインマスカット」

●今後の普及活動の課題

今後は、新規に植栽した樹のスムーズな樹冠拡大や、新規就農者の契約更新や規模拡大の支援により、優良園地の確保と担い手の育成を図る。

また、「シャインマスカット」では、「かすり症」と呼ばれる生理障害が発生し、多発すると外観品質が著しく低下するが、現在のところ有効な対策は確立されていない。今後、農業試験場府中果樹研究所などと連携して、知見の共有化や現地試験の実施などにより効果的な対策について検討していく計画である。